



# Flash News

〈フラッシュニュース〉

## 目次

- 株式会社百五銀行および株式会社百五経済研究所ならびに日本政策投資銀行との産学連携に関する包括協定を締結
- 「高等教育創造開発センター」開所式挙行
- 豊田章一郎氏来学
- 国際シンポジウム「フロリダ大学における教育改善支援体制の確立と運用」
- 「三重大学と放送大学間の単位互換モデル構築の覚書」（平成18年度）に調印
- 「三重大学COEプロジェクト」中間成果発表会開催
- J Aグループ三重と連携協定締結
- 流通情報システム展示会「RETAILTECH JAPAN」（AggrGate）に参加
- 「個人情報保護に関する講演会」開催
- 「平成17年度後期業務改善活動報告会」開催

## 株式会社百五銀行および株式会社百五経済研究所 ならびに日本政策投資銀行との産学連携に関する包括協定を締結

本学は3月10日、関係者の出席のもと標記包括協定を締結し、調印式が、三翠会館で執り行われました。これまでも本学と百五銀行および百五経済研究所は、産学連携による地域企業への知的資産の活用や、地域社会への情報提供を個別の関係で協力してきましたが、今後は、さらに個別の協力関係の発展と三者の組織の機能を幅広く活用しながら、密接な情報交換や地域政策の研究等を行い、連携活動を通じて地域社会への貢献と成果の活用を目指します。また、日本政策投資銀行とは、本学の持つ教育・研究の成果と日本政策投資銀行の持つ幅広いネットワークと金融・経済に関するノウハウ等を生かし、組織的な連携ならびに地域活性化活動等の産学連携を行うこととしました。写真左から 日本政策投資銀行 越智久男理事、豊田学長、百五銀行 前田肇取締役頭取、百五経済研究所 松生安彦代表取締役



## 「高等教育創造開発センター」開所式挙行

3月2日、総合研究棟Ⅱ3Fに高等教育創造開発センター（センター長：山田康彦教育担当副学長）が設置され、豊田長康学長をはじめ関係者列席のもと開所式が行われました。センターは、専任教職員の居室スペースと、20人程度の会議・セミナー・ワークショップが可能な多目的共用スペースで構成され、全学の教育目標達成を支援する諸活動の拠点として始動しました。センターは英語名称の頭文字を取り、通称HEDC（ヘデック）と呼ばれています。センター諸活動の詳細については、<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/> をご覧下さい。

## 豊田章一郎氏来学

トヨタ自動車名誉会長の豊田章一郎氏が3月9日、本学を訪問されました。同氏は、トヨタグループが出資して設立されたコンポン研究所の代表取締役にかかれており、同研究所は、人類の継続的発展のために百年先を見すえた研究を進める目的で設立されました。今回、9年にわたり電池の基礎研究で共同研究を続けている工学部分子素材工学科の武田研究室を見学する目的で来学され「物づくりが大好きである」との噂どおり、興味深く実験室を見て回られました。戦前、同氏の祖父に当たる豊田佐吉氏が、アメリカまで燃料なしで飛行可能なパワーのある電池の開発に多額の賞金を出したのは有名な話です。未だ実現はしていませんが、「そんな夢のある電池の基礎研究を」と言うのが本学との共同研究の趣旨です。研究室を見学後、豊田学長を訪ねられ、森野、渡邊理事も加わり、親しく懇談をされました。



写真右より 豊田章一郎氏、豊田学長、武田保雄教授

## 国際シンポジウム「フロリダ大学における教育改善支援体制の確立と運用」

2月28日と3月2日の2回にわたり、フロリダ大学のFedro S. Zazueta-Ranahan教授（写真）を講師にお招きし、国際交流センターと高等教育創造開発センターの共催のもと標記シンポジウムが開催されました（3月2日は生物資源学部FD委員会も共催）。Zazueta教授は、良質な教育研究環境を提供する組織であるOffice of Academic Technology(<http://home.at.ufl.edu/>)の最高責任者の立場から、「フロリダ大学における教育改善支援体制成立の歴史的経緯」や「E-learningの現況」についての講演があり、その後、本学における教育改善への取り組みや大学レベルでのサポート体制などについて活発なディスカッションが行われました。



## 「三重大学と放送大学間の単位互換モデル構築の覚書」（平成18年度）に調印



3月22日、平成17年度に引き続き「三重大学と放送大学との間における単位互換モデル構築に向けた研究プロジェクトの実施に関する覚書」（平成18年度）に調印しました。2003年7月に締結した単位互換協定に基づき、放送大学が開設する授業科目を多様な形で利用し、その教育効果等を検証しつつ、放送大学を有効に活用するための在り方を研究するプロジェクトです。

2年目の今年は、授業科目も増え、受講予定者数も484名と昨年を大幅に上回っています。この研究プロジェクトによって、本学と放送大学間の更なる効果的な単位互換モデルの構築が期待されます。写真左より 放送大学学園 梶野慎一理事、山田康彦理事

## 「三重大学COEプロジェクト」中間成果発表会開催

5年間の研究プロジェクトとして平成16年に学内公募によって採択された「三重大学COEプロジェクト」の中間成果発表会が、2月23日三翠ホールにおいて行われました。また、同時に研究機構委員会委員に本学学長および小田 章・和歌山大学長、黒木登志夫・岐阜大学長、松井信行・名古屋工業大学長の外部委員3名を加えた評価委員会による中間評価が行われ、それぞれ研究遂行上の注文が加えられ、今後3年間の研究推進が認められました。なお、2年間の研究期間を経て終了したCOE-Cについては3月23日の研究機構委員会において事後評価が行われました。

三重大学COE-A 国際に開かれた教育・リソースの創出と発展	
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
三重大学COE-B 国際に開かれた教育・リソースの創出と発展	
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
三重大学COE-C 国際に開かれた教育・リソースの創出と発展	
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)
「国際化推進体制による国際教育推進の発展とその発展を支える環境の構築」 代表 梶野慎一(国際交流センター長)	代表 梶野慎一(国際交流センター長)

## J A グループ三重と連携協定締結



生物資源学部は、2月27日JAグループ三重と地域農業の振興と地域社会の発展を目指した連携協定を結びました。これは、地域農業の振興や課題解決に向けた方策の研究、学生インターンシップの実施、人・資金両面での連携体制の強化などが柱となり、両者は近く具体的内容を詰め、来年度から本格的に取り組めます。JAグループ三重には、農業基盤の変化予測や将来方向、地域住民に対する提供商品・サービスのあり方などの研究が期待され、大学が持つ高度で専門的な知識を活用することで、県農業の維持発展に貢献したいと考えています。

写真左より 三重県農業協同組合中央会 田中利宣会長、天野秀臣学部長

## 流通情報システム展示会「RETAILTECH JAPAN」(AggriGate)に参加

店舗からサプライチェーンまで、流通情報システムの最新情報を紹介するアジア最大級の展示会である「RETAILTECH JAPAN」が3月7日～10日にかけて、東京国際展示場で開催されました。この展示会の中に「店舗からおいしい食材を味わいながら食について知る・感じる・考える『AggriGateブース』」が設置され、三重大学が中心となって農林水産省の研究機関と共に行っている研究グループも展示を行いました。また、本学の亀岡孝治副学長が「最新のICTを用いた食・農・環境研究」について分かりやすく発表を行いました。



## 「個人情報保護に関する講演会」開催

3月2日、医学部臨床第二講義室において「個人情報保護に関する講演会」が開催されました。講演は、富岡義人助教授・工学部が「国立大学における個人情報保護」と題して過剰反応や保護法と著作権法との関係などについて、また、豊島明子助教授・人文学部が「個人情報保護Q & Aの説明」と題して個人情報を取り扱う上での適切な方法についてそれぞれ分かりやすく解説し、約130名の教職員は熱心に耳を傾けていました。



## 「平成17年度後期業務改善活動報告会」開催

3月16日、本学が中期目標・計画に掲げる目標チャレンジ活動の一環として、一般職員による「後期業務改善活動報告会」を開催しました。学長講話「業務改善活動のポイント」に続き、各部署推薦9グループの活動報告及び前期優秀グループによるその後の活動報告を行いました。日本科学技術連盟の藤原淑郎講師による講評が行われた後、役員等による審査の結果、医療サービス課「グループスリム化」、情報図書館課「業務改善グループ」、生物資源学部「学部業務改善グループ」、企画課「チャレンジ10」の4グループが「優秀賞」を受賞しました。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾